

国立国語研究所学術情報リポジトリ

Usage and Function of the Japanese Topic Marker "tte"

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 竹林, 一志, TAKEBAYASHI, Kazushi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001903

主題提示「って」の用法と機能

Usage and Function of the Japanese Topic Marker “tte”

竹林 一志

TAKEBAYASHI, Kazushi

要旨

本稿では、主題提示「って」の用法・機能について、「は」の主題提示用法と対照しつつ、また主題提示以外の「って」と関連付けて考察する。

主題提示「って」の用法を考えるに当たって、まず、「って」で提示される要素（主題）が文脈・場面上、既出か否かという観点から分類を行う。そして、主題提示「は」と対照し、「って」と「は」の、主題提示の仕方の相違を見る。この相違は、助詞「って」「は」が互いに異なる機能を持つことによる。主題提示「って」は、主題提示以外の「って」と同じく、「引用」という機能を有している。

キーワード: 主題提示 「って」 「は」 引用 特立提示

1. はじめに

本稿では、主題提示の「って」について考察する。主題提示「って」とは、次のようなものである。

- (1) 君って, 案外すばしっこいんだね。
- (2) (正体不明のものを見せられて) それって何?

このような「って」についての研究や（日本語教育における）教育・学習は、従来、主題提示の「は」に比べると、あまりなされてこなかったように見える¹⁾。しかし、「って」によって主題が提示される場合、「って」を「は」に置き換えることができない（あるいは、そうすると不自然になる）ことがある（3.2節）。また、逆に、主題提示の「は」が使えるところに「って」を用いることができないという場合もある（3.2節）。こうしたことは、「って」による主題提示が「は」による主題提示とは異なる在り方を持っていることを示している。と同時に、「って」について考えることで「は」による主題提示の在り方も一層明確に把握されるということを示唆していると言える。また、従来、主題のある文と主題のない文をめぐっては、野田（1996）に典型的に見られるように、「は」が主題提示の代表的形式とされ、「が」と対照されることが多かった。もちろん「は」「が」の対照研究は必要なことであるが、

- (3) 話者 A: 田中君, 今度結婚するそうだよ。
- 話者 B: 田中君って誰?

と「って」を用いるところを、

(4) 話者 A：田中君、今度結婚するそうだよ。

話者 B：*田中君が誰？

と言うような誤用が日本語学習者（例えば韓国語母語話者）に見られる。このことは、日本語教育において主題提示形式を扱う際、「って」に一層注目する必要があることを示すものであろう。主題提示の「って」は、日本語教科書では初中級の段階で出てくる（『日本語中級 I』[国際交流基金]; *Japanese for everyone* [Gakken]; *Japanese for busy people II* [revised edition] (AJALT) 等)。とはいえ、管見によれば、そこで取り上げられている用法は（一部の例外を除いて）上の例 (3) のように「って」の前接項目についての説明を求めるものに限られている（特に、先行発話に登場した要素を承けて説明を求める場合が多い）。しかし、この用法は主題提示「って」の一面にすぎない。

以下では、まず、先行研究を見、その問題点を指摘する（第 2 節）。その後、主題提示「って」の用法について見（第 3 節）、次いで、主題提示以外の「って」を概観する（第 4 節）。そして、主題提示「って」と、それ以外の「って」との関連付けを行い、「って」の語性を明らかにすることにより、主題提示「って」の機能を明確にする（第 5 節）。

2. 先行研究とその問題点

主題提示「って」に関する先行研究としては、藤村（1993）・丹羽（1994）・渡辺（1995）・普久原（1995）・手塚（2001）などが挙げられる。それらのうち、丹羽（1994）は、「って」の主題提示用法について、「は」との対照も行いつつ質量ともに充実した論を展開しているという点で代表的なものと思われる。そこで、本節では、この丹羽（1994）を取り上げ、検討を加えることとする。

丹羽（1994）は「主題提示」の「って」を次の二種類に分けている。

(5) 「MMC にしよう。」「MMC って何？」（丹羽 [1994 : 28] の②a）

(6) 人間って愚かなものだ。（丹羽 [1994 : 28] の②b）

(5) のタイプの「って」は、「言葉を再現して提示する」ものであり、「意味が知られていない言葉を引用」して「述部で意味・指示対象を問い・与える」用法であるとする（丹羽, 1994 : 28-29）。一方、(6) のタイプは、「捉え直し主題を表す「って」」（p.34）として、次のように述べられている。

一章の「って」（竹林注：(5) のタイプの「って」）が言葉であることを示す、明らかな引用符であるというのとは異なるが、この章の「って」（(6) のタイプの「って」）は捉え直しを表す述語に限るという点において、引用としての性格を保持しているといえるのである。（p.37）

((6) のタイプの「って」は (ア) X がいかなるものか、(イ) X が存在するか否かということ捉え直すことにおいて、主題解説関係を表す助詞である (p.53)

本節で検討したいのは、この第二タイプ（(6)のタイプ）の「って」に関する丹羽（1994）の記述の妥当性である。

まず、丹羽（1994）の「捉え直し」という概念を確認したい。

(7) 人間って本当に高等動物なのかな？（丹羽 [1994: 36] の⑥b）

この例について、丹羽（1994: 36）は次のように言う。

「人間」のことを知っていて⑥bと言うのは、知っているにせよ、「人間」がいかなるものか改めて問い直している。……この場合、問題になる意味は、既知の意味ではなく、それに関して新たな観点から捉え直した意味ということになる。……「人間」は名前と意味が既に結びついており、この文で関心があるのはあくまで「人間」というモノであって、言葉に関心があるのではない。しかしそこをあえて名前を引用するという形を取ることで、その名前に伴うべき新たな意味を付与し、「人間」に関わる既存の意味を改定したり、それに付け加えたりするのである。

しかし、次例を見られたい。

(8) 私って、みんなも知ってる通り、夜型人間でしょ。だから、朝7時の集合はつらいな。

(9) アメリカの初代大統領ってジョージ・ワシントンだよな。

(10) 君って、お酒も煙草もやらないんだよな。

これらの例では、主部項目（「私」「アメリカの初代大統領」「君」）について、「新たな観点から捉え直し」しているわけでもなく、「新たな意味を付与し」て「既存の意味を改定したり、それに付け加えたり」しているのでもない。(8)～(10)は、「既知の意味」「既存の意味」、すなわち、主部項目について既に知られている事柄を確認している表現である。丹羽(1994)が「捉え直し主題を表す「って」」の例として挙げている「人間って愚かなものだ。」(＝(6))に関しても、

(11) これまでの歴史から誰もが分かってるように人間って愚かなものだから、科学の使い方には十分気を付けなくちゃいけないな。

のような場合には、「捉え直し」とは言えなくなる。(11)は、「人間って愚かなものだ」という「これまでの歴史から誰もが分かってる」既知・既存の命題に基づいて、「科学の使い方には十分気を付けなくちゃいけない」という主張をしている文である。よって、「人間」について「愚かなものだ」という「新たな意味を付与し」ているのではない。

以上のように、主題提示の「って」に関して、丹羽（1994）の記述には適切でないところがある。

3. 主題提示「って」の用法

本節では、まず、主題提示の「って」について、「って」で提示される要素（主題）が文脈・場面上、既出か否かという観点から用法を分類してみたい。その作業は、主題提示の

「って」(以下、本節では、単に「って」と言う)を考えるために有効であると考えられる。そして、その後、「って」と「は」とを対照することにする²。

3.1 「って」の用法の分類

はじめに、先行文脈の中に既に登場した要素を提示する「って」の例を挙げる。

文脈に既出の要素の提示

(12) 話者 A : 田中君, 今度結婚するそうだよ。

話者 B : 田中君って誰? (= (3))

(13) 話者 A : ぼくの友達は, いつも, 約束の時間に 30 分も遅れて来るんだよ。

話者 B : えーっ。そんな奴っているかよ。

(12) (13) では、話者 A の発話の中に出てきた要素「田中君」「(話者 A の) 友達」を取り上げて、話者 B が「田中君って誰?」「そんな奴っているかよ。」と質問したり驚きを表したりしている。

次に、場面に既に登場している要素を提示する「って」を見る。

場面に既出の要素の提示

(14) 俺って, ほんとにバカだよな。

(15) 君って, 案外すばしっこいんだね。(= (1))

(16) (正体不明のものを見せられて) それって何? (= (2))

(14) ~ (16) で、「俺」「君」「それ」は、当該発話がなされている場面に既に登場している要素である。

一方、「って」は、その提示する要素が、文脈・場面に既出でない場合にも用いられる。

文脈に既出でない要素の提示

(17) (急に話題を変えて) ねえ, 人生って不思議だよな。

(18) ところで, 中学 2 年の時に同じクラスだった山本君って, 今どうしてるのかな? これら (17) (18) で、「って」の承ける「人生」「中学 2 年の時に同じクラスだった山本君」は、文脈上、初出の要素である。

場面に既出でない要素の提示

(19) ところで, 中学 2 年の時に同じクラスだった山本君って, 今どうしてるのかな?
(= (18))

(20) 昨日僕が貸したペンって, どこにあるの?

(19) (20) の「中学 2 年の時に同じクラスだった山本君」「昨日僕が貸したペン」は、当該発話の場面に存在していない要素である。

以上から、「って」は、その承ける要素が文脈・場面上、既出か否かに関わらず用いられることが分かる。

3.2 「って」と「は」の対照

では、(12)～(20)の「って」の部分に「は」を用いることができるであろうか。

まず、文脈に既出の要素を提示する場合について見てみたい。

文脈に既出の要素の提示

(21) a 話者 A：田中君，今度結婚するそうだよ。

話者 B：田中君って誰？ (= (12))

b 話者 A：田中君，今度結婚するそうだよ。

話者 B：*田中君は誰？

(22) a 話者 A：ぼくの友達は，いつも，約束の時間に 30 分も遅れて来るんだよ。

話者 B：えーっ。そんな奴っているかよ。 (= (13))

b 話者 A：ぼくの友達は，いつも，約束の時間に 30 分も遅れて来るんだよ。

話者 B：[?]えーっ。そんな奴はいるかよ。

文脈に既出の要素を提示する「って」に関して、(21)の場合は、「は」を用いることができない。また、(22)では、対比の「は」（例えば、「約束の時間に 5 分や 10 分遅れて来る人はいるとしても」というような含みを持たせた場合）なら全く不適格であるとは言いきれないが、(22b)「えーっ。そんな奴はいるかよ。」は不自然な文である。

それでは、(21) (22)において、上のように「は」の使用が不適格あるいは不自然なのは、なぜであろうか。その理由は、助詞「は」の機能から説明される。ここで詳しく述べる余裕はないが、「は」は「特立提示」という機能を果たす形式であると考えられる（竹林，2001）。特立提示というのは、ある要素を特に取り立てて提示するということであるが、「特に取り立てる」というからには、そこから特立される「背景」(base)が存在するはずである。すなわち、「は」で提示するからには、「は」で特立提示される要素を含む、ある背景が存在していなければならない（竹林，1997：100-101）。「は」には様々な用法があるが、例えば主題提示用法の場合、「背景」は当該言表場面で話題となり得る諸要素の集合全体である。また、対比用法における「背景」は、対比される要素が属すると見なされる集合全体である。いずれの場合も（そして上の二用法以外の場合も）、「背景」となるのは、「は」によって特立される要素を成員とする（と言表者によって見なされる）カテゴリー全体であると言える。問題となっている(21b)「*田中君は誰？」の場合、そうした「背景」は含意されていない。そのため、「は」を用いることができないものと考えられる。一方、(22b)「[?]えーっ。そんな奴はいるかよ。」で、対比の「は」としてなら「は」の使用が（不自然ながらも）完全に不適格とまでは言えないのは、「約束の時間に遅れて来る人」という背景から「そんな奴」、すなわち、常に約束の時間に 30 分も遅れて来る人を特立するからである。にも関わらず、(22b)が不自然なのは、そうした対比の意味が、「えーっ。そんな奴はいるかよ。」のみでは伝わりにくいためであろう。実際、次のように対比的な言葉を補えば、「は」の使用が自然になる。

(23) 話者 A: ぼくの友達は、いつも、約束の時間に 30 分も遅れて来るんだよ。

話者 B: えーっ。5 分や 10 分遅れて来る奴はいても、君の言ってる、そんな奴
はいるかよ。

次に、場面に既出の要素を提示する「って」の部分に「は」を用い得るか、ということを見る。

場面に既出の要素の提示

(24) a 俺って、ほんとにバカだよな。(= (14))

b 俺は、ほんとにバカだよな。

(25) a 君って、案外すばしっこいんだね。(= (15))

b 君は、案外すばしっこいんだね。

(26) a (正体不明のものを見せられて) それって何? (= (16))

b (正体不明のものを見せられて) [?]/_#それは何? («#»は、別のコンテクストなら適格であることを表す)

(24b) (25b) では主題提示の「は」を用いることができる。これに対して、(26b) は、「正体不明のもの」以外に、何か別のものも既に見せられていた上での発話というような対比的なコンテクストにおいてなら「は」が使用可能であるが、そうした対比的な場合でないのなら「は」の使用は不自然である。この不自然さは、先に (21b) 「*田中君は誰?」に関して述べたのと同様、「は」の特立提示機能に付随する「ある背景」が (26b) に存在しないことによる³⁾。「は」の使用が可能な (24b) (25b) では、「人」という背景から、その一員である「俺」「君」が特立されている。

最後に、文脈・場面に既出でない要素を提示する「って」のところに「は」が使えるかどうかを見てみたい。

文脈に既出でない要素の提示

(27) a (急に話題を変えて) ねえ、人生って不思議だよな。(= (17))

b (急に話題を変えて) ねえ、人生は不思議だよな。

(28) a ところで、中学 2 年の時に同じクラスだった山本君って、
今どうしてるのかな? (= (18))

b ところで、中学 2 年の時に同じクラスだった山本君は、
今どうしてるのかな?

場面に既出でない要素の提示

(29) a ところで、中学 2 年の時に同じクラスだった山本君って、
今どうしてるのかな? (= (19))

b ところで、中学 2 年の時に同じクラスだった山本君は、今どうしてるのかな?

(30) a 昨日僕が貸したペンって、どこにあるの? (= (20))

b 昨日僕が貸したペンは、どこにあるの?

上のように、(27)～(30)では主題提示の「は」を用いることができる。これは、話題となり得る諸要素から構成される「話題そのもの」という背景から特定の話題（「人生」「中学2年の時に同じクラスだった山本君」「昨日僕が貸したペン」）を特立しているためである。

以上、主題提示「って」の箇所には「は」が使えることもあり、使えないこともあることを見た。そして、そうした「は」の使用の可否を、「は」の機能に随伴する「ある背景」の存在の有無ということから説明した。

しかし、逆に、主題提示の「は」が使えるところにすべて「って」を用いることができるというわけではない。

(31) a 昔々、ある所に、おじいさんとおばあさんが住んでいました。おじいさんは山へ柴刈りに、おばあさんは川へ洗濯に行きました。

b *昔々、ある所に、おじいさんとおばあさんが住んでいました。おじいさんって山へ柴刈りに、おばあさんって川へ洗濯に行きました。

(32) a 話者 A：最近なにか運動してる？

話者 B：ラジオ体操はやってる。(尾上, 1981: 11)

b 話者 A：最近なにか運動してる？

話者 B：*ラジオ体操ってやってる。

(31)(32)において、「は」の使用は可能であるが、「って」を用いることはできない（その理由は第5節で考察する）。

上から、「って」は、「は」とは異なる仕方でも主題を提示するものであることが分かる。次節以降では、主題提示以外の「って」を見、それらと主題提示の「って」との関連を考察することで、主題提示「って」の機能を明確にする。

4. 主題提示以外の「って」

「って」には、これまで見た主題提示の働き以外に、以下のような諸用法がある。

(33) a 花子は愛犬家だって誰かが言ってたね。

b 太郎がアメリカに行くって聞いたよ。

(33)の「って」は、「花子は愛犬家だ」「太郎がアメリカに行く」という内容を誰かが発話したのを承けて、それを当該発話に引用するものである⁴。引用の際、(33a)のように「(〇〇が)言った」という形をとるか、(33b)のように「(〇〇が)聞いた」という形をとるかは、この用法の本質に関わる事柄ではない。また、次例のように、これから発話される内容を想定して、それを当該発話に引用する場合もある。

(34) a 今度のパーティーには行けないって、はっきり言うんだよ。

b よくやったってほめられたら、どんなに嬉しいだろう。

さらに、発話内容のみならず、次のように書記内容を引用することもある。

(35) ほら、立入禁止って書いてあるよ。

(33) ~ (35) のような用法を「言表内容の引用」用法と呼んでおく。

次例の「って」は、思考内容・感覚内容を当該発話に引用する用法である。

(36) a 私、彼の意見は正しいって考えてるんです。(思考内容の引用)

b そんなことしたら、みんなに、ひどい奴だって思われるだろうね。(思考内容の引用)

c 寒いって感じた瞬間、雪が降ってることに気がきました。(感覚内容の引用)

d 体の調子がどこか変だなって感じたら、無理しないで早く寝るのが一番だよ。

(感覚内容の引用)

さらに、「って」には次のような用法もある。

(37) a 君って人は、一体どういう人間なんだ。

b 「ゆううつ」って字は、こう書くんだっけ?

この(37)の「って」は、「どの人」か「どの字」かということ特定する要素を承けて、後項との間に連体修飾—被修飾の関係を構成する用法である。

(38) a こんな状況では、どうあがいたって無理だ。

b どの国に行ったって問題があるのは同じだ。

(38)の「って」は逆接の仮定条件句を構成する用法である。また、同じ逆接の条件句でも、次の「って」は逆接確定条件句を構成する用法である。

(39) a 一度断られたって、諦めるのには早いよ。

b 今成功していたって、後々どうなるかは分からない。

以上、「って」の、主題提示以外の諸用法を見た。すなわち、「言表内容の引用」用法、「思考・感覚内容の引用」用法、「連体修飾関係構成」用法、「逆接仮定条件句構成」用法、「逆接確定条件句構成」用法である。それでは、これらの諸用法に共通する性質は、いかなるものであろうか。それは、「引用」という機能に求められる⁵。ここで「引用」と言うのは、ある領域に存在する要素を(そっくりそのままではないにしても)コピーして別の領域に持ってくるということである。例えば、「太郎がアメリカに行くって聞いたよ。」(=(33b))であれば、「太郎がアメリカに行く」という、過去における誰かの発話をコピーして、現在の発話の場に持ってきているわけである。同様に、「今度のパーティーには行けないって、はっきり言うんだよ。」(=(34a))においては、未来に属する発話として想定されているものをコピーして、現在の発話の場に持ち出している。「思考・感覚内容の引用」用法((36))も、思考・感覚の内容を当該発話に引用するものである。

それでは、「連体修飾関係構成」用法、「逆接仮定条件句構成」用法、「逆接確定条件句構成」用法において、「って」は、いかなる在り方で引用の機能を担っているものであろうか。まず、「君って人は、一体どういう人間なんだ。」(=(37a))のような「連体修飾関係構成」用法であるが、これは、「どの人か」という、「って」の後項(「人」)を特定・限定する要

素となり得る候補（「私」「君」「彼」「彼女」「山田君」等々）のうちから、ある要素（「君」）を発話の場に持ってくるという引用の在り方を持つ。また、「こんな状況では、どうあがいたって無理だ。」（＝（38a））のような「逆接仮定条件句構成」用法と、「一度断られたって、諦めるのには早いよ。」（＝（39a））のような「逆接確定条件句構成」用法においては、仮定世界に属する事柄、あるいは、既定世界に属する事柄がコピーされて、当該発話の場に持ち出されている。

ここで、本稿が「引用」と呼ぶものと他の研究で「引用」と呼ばれているものとの共通点・相違点について述べておきたい。藤田（2000）は、「統語論の研究において問題となる「引用」（「統語的引用」と呼ばれている）について次のように規定している。

所与と見なされるコトバを再現しようとする形で示すもので、そのコトバのまとまりが、そのようなものとして、文の構成要素として機能しているもの。（p.9）

藤田（2000：10）は、「再現」というタームについて、「同一性に基づいて同等のものを差し出すという意」と説明している。引用に「再現」という要素を認める見方は、本稿の立場と重なるが⁶、「再現」の対象を「所与と見なされるコトバ」に限定している点で、藤田（2000）の「統語的引用」は、本稿が「引用」と呼ぶものとは異なる。例えば、「こんな状況では、どうあがいたって無理だ。」（＝（38a））のような場合、「って」は言葉を再現しているとは見られない。よって、藤田（2000）の「統語的引用」には該当しないことになる。また、鎌田（2000）は、「「引用」とはある伝達（思考を含む）の場で成立した（あるいは成立する）発話・思考を別の伝達の場に取り込む行為」（p.172）であるとしている。藤田（2000）の場合と同様、「取り込み」の対象（範囲）を何とするかという点で、鎌田（2000）は本稿と立場を異にする。例えば「君って人は、一体どういう人間なんだ。」（＝（37a））において、「って」の承ける要素（「君」）は「ある伝達（思考を含む）の場」で成立した（あるいは成立する）発話・思考」⁷とは言い難い⁷。

それでは、主題提示以外の「って」に関して上で見たことは、主題提示「って」にも当てはまるであろうか。すなわち、主題提示の「って」も、引用という機能を担っているとと言えるであろうか。次節では、この問題について考えることとする。

5. 主題提示「って」の機能

次例を見てみたい。

(40) 話者 A：田中君、今度結婚するそうだよ。

話者 B：田中君って誰？（＝（12））

(41) 話者 A：ぼくの友達は、いつも、約束の時間に 30 分も遅れて来るんだよ。

話者 B：えーっ。そんな奴っているかよ。（＝（13））

これらは第 3 節で「文脈に既出の要素の提示」として出した例であるが、「田中君って誰？」（＝（40））の「田中君」、「えーっ。そんな奴っているかよ。」（＝（41））の「そんな奴

は、いずれも、先行する発話「田中君、今度結婚するそうだよ。」(= (40)), 「ぼくの友達は、いつも、約束の時間に30分も遅れて来るんだよ。」(= (41))に登場した要素をコピーして当該発話に持ち出したものである。これは引用の機能そのものである。

次に、「場面に既出の要素の提示」として出した例について検討する。

(42) 俺って, ほんとにバカだよな。(= (14))

(43) 君って, 案外すばしっこいんだね。(= (15))

(44) (正体不明のものを見せられて) それって何?(= (16))

(42) ~ (44)の「俺」「君」「それ」は、当該発話の場面に既に登場している要素を発話の中に取り込んだものである。先の「文脈に既出の要素の提示」との違いは、「って」で提示される要素が文脈上の既出か、場面上的の既出か、という点のみである。既出要素を引用するということにおいて、(40) ~ (44)の「って」は、「太郎がアメリカに行くって聞いたよ。」(= (33b))のような「言表内容の引用」用法の一部⁸や「一度断られたって, 諦めるのには早いよ。」(= (39a))のような「逆接確定条件句構成」用法と共通する。

続いて、文脈・場面上、既出でない要素を提示する「って」の例を再掲する。

文脈に既出でない要素の提示

(45) (急に話題を変えて) ねえ, 人生って不思議だよな。(= (17))

(46) ところで, 中学2年の時に同じクラスだった山本君って, 今どうしてるのかな?
(= (18))

場面に既出でない要素の提示

(47) ところで, 中学2年の時に同じクラスだった山本君って, 今どうしてるのかな?
(= (19))

(48) 昨日僕が貸したペンって, どこにあるの?(= (20))

これら(45) ~ (48)の「って」は、3.2節で述べたように、話題となり得る候補のうちから、文脈・場面に未出の、特定の項目(「人生」「中学2年の時に同じクラスだった山本君」「昨日僕が貸したペン」)を発話の場に持ち出したものである。あるカテゴリーから特定の成員を引用するという在り方は、「連体修飾関係構成」用法(第4節)と共通する。既に述べたように、「連体修飾関係構成」用法は、「ゆううつ って字は、こう書くんだっけ?」(= (37b))のように、「って」の後項(「字」)を特定・限定する要素となり得る候補の集合から、あるもの(「ゆううつ」)を引用する用法である。

以上のように、主題提示「って」も、主題提示以外の「って」と同様、引用という機能を果たしていると言える。

上のことを踏まえて、次例を見てみたい。

(49) a 昔々, ある所に, おじいさんとおばあさんが住んでいました。おじいさんは山へ柴刈りに, おばあさんは川へ洗濯に行きました。(= (31a))

b *昔々, ある所に, おじいさんとおばあさんが住んでいました。おじいさんって

山へ柴刈りに、おばあさんって川へ洗濯に行きました。(= (31b))

(50) a 話者 A : 最近なにか運動してる？

話者 B : ラジオ体操はやってる。(= (32a))

b 話者 A : 最近なにか運動してる？

話者 B : *ラジオ体操ってやってる。(= (32b))

(49a) の二つの「は」は、主題を提示すると同時に、他との対比を表す「は」である。
(49b) のように、この「は」のところに「って」を使うことはできない。これは、対比される要素に高い際立ち度 (saliency) を与える必要があるためであろう (竹林, 2001)。「って」は引用の機能を有するのみで、特立提示機能 (3.2 節) を持つ「は」のように、ある要素を高く際立たせるという働きはしない。そのため、(49b) において「って」を用いることができない。(50) についても同様のことが言える。(50a) の「ラジオ体操はやってる。」という文は、「他の運動はやっていないが」という含みを持つ、対比の表現である。丹羽 (1994 : 40) は、「って」に対比性はない」としながらも、「主題を含む文が対比性を帯びるということもあるわけで、その場合に「って」が用いられることもあり得る」と述べ、次の例を挙げている。

(51) ?次郎ってわりとぼんやりしてるけど、太郎って抜け目がないね。

(52) 次郎ってわりとぼんやりしてるけど、太郎は抜け目がないね。

(53) 次郎に比べれば、太郎って抜け目がないね。

そして、「対比の二項とも「って」を用いる場合は適格性が相対的に低い、一項だけなら自然である」としている。しかし、上の (52) (53) において、「って」を含む節 («次郎ってわりとぼんやりしてるけど」「太郎って抜け目がないね») は、結果的に「対比性を帯びる」ように見えるとしても、純然たる対比の表現とは言い難い。(52) は、「次郎」を「って」によって発話の場に持ち出し、それについて「わりとぼんやりしてる」と属性を叙述した後、それと対比をなすものとして「太郎が抜け目がないこと」を追加的に述べた表現である。次のように従属節と主節とを最初から対比している場合には、(52) の文は不適格となる。

(54) («お宅は太郎君と次郎君がいるけど、兄弟でも性格は違うものなの?») と聞かれて) *次郎ってわりとぼんやりしてるけど、太郎は抜け目がないね。

この場合、「次郎はわりとぼんやりしてるけど、太郎は抜け目がないね。」と、「は」を使わなければならない。また、(53)「次郎に比べれば、太郎って抜け目がないね。」について言えば、従属節「次郎に比べれば」は、主節で表現されている内容の程度 (すなわち、どの程度、太郎が抜け目がないのか) を表すものであり、主節が従属節との対比において表現されているのではない。

6. おわりに

以上、本稿では、従来「は」に比して注目度の低かった主題提示「って」について、「は」による主題提示と対照しつつ考察した。同じく主題提示と言っても、「って」による主題提示は、「は」による主題提示とは異なるものである。本稿の考察によれば、「って」による主題提示は「引用主題提示」、「は」によるものは「特立主題提示」というように言い分けられる。これらのほかに、「それ、珍しいね。」のような無助詞形式による主題提示がある。これは、ある要素を単純・無色透明に主題として提示する、「単純主題提示」とでも呼ぶべきものと考えられる。「って」「は」による主題提示と対照しつつ、別稿で論じたい。

日本語教育において、文の主題がいかにかに提示されるかということは、極めて重要な教授・学習項目である。本稿の内容は、主題提示についての、より細やかで多面的な教育・学習のために適用・貢献し得るものとする。また、本稿で主題提示の在り方を「って」による「引用主題提示」・「は」による「特立主題提示」としたことは、構文論において少なくとも二つの意義・意味合いを持つ。第一は、「は」によって主題が提示される時、その主題は単なる主題ではなく、「特立された主題」という特定の色合いを有するものであることを述べたということである。そして、これと関連して第二は、「提題論」と言えば（一部の例外はあるにせよ）事実上「は」の主題提示用法についての論のことであったとさえ極言できるような研究史・現況において、「は」による主題提示と「って」による主題提示とを並列的に扱ったということである。「は」のみを対象とする提題論は、一面的であると言わざるを得ない。

主題提示「って」に対する注目度が従来低かった背景には、水谷（1979）の指摘するような「書き言葉」重視・「話し言葉」軽視の見方が存在するものと考えられる。書き言葉における「って」の使用頻度は低い。しかし、「って」は、話し言葉では頻繁に用いられる。特に中級以上の日本語学習者において、自然な日本語会話のためにも主題提示「って」の用法を習得する必要があることは、言うまでもないであろう（cf. 富阪, 1997; Tanahashi & Oshima, 1998）。話し言葉も重んじられるようになってきた日本語教育において、今後、主題提示「って」の研究・教育・学習がより盛んになされることが望ましいと言える。

注

¹ 例えば、最近出版された庵・高梨・中西・山田（2000; 2001）でも、主題提示の「って」については、ほとんど言及されていない。しかし、もちろん、主題提示「って」についての研究・教育・学習が行われていないに等しいと言っているのではない。「あまりなされてこなかったように見える」と述べたのは、あくまでも主題提示「は」と比較してのことである。

² 「それ、何？」のような無助詞形式との対照も興味深いが、別稿に譲りたい。

³ (21b) 「*田中君は誰？」・(26b) 「?/#それは何？」を不適格・不自然ととらえない日本

語母語話者もいるようである。今後、広く調査したい。なお、丹羽（1994：28）等は、(21b)と同類の例（cf. (5)）について、筆者と同じく、「は」が使えないとしている。

4 このタイプには、「彼、愛犬家だって。」のような「伝聞」の「って」も含まれる。

5 丹羽（1994：27-28）も次のように述べている。

「って」というのは、

- ①a あいつが犯人だって思っていました。（と）
- b 楊さんが日本に来るって。（とさ）
- c え？金がないって？（だと）
- d やめろって。（といってるだろ）
- e 山田って人が来たよ。（という）
- f なぜって、別に理由なんかないよ。（といって）
- g 山田さんって面白い人ですね。（というのは）

のように、様々な用法を持つが、括弧内の表現と近似的であり、全体として引用を表す形式であることは明らかである。

上の a～g の例は、本節の分類で言えば、「言表内容の引用」用法（b・c・d・f）、「思考・感覚内容の引用」用法（a）、「連体修飾関係構成」用法（e）、「主題提示」用法（g）のように整理される。しかし、これらの例（用法）が各々、いかなる意味で「引用を表す形式である」と言えるのかということについて、丹羽（1994）では「って」の用法全般にわたる具体的説明はなされていない。

6 砂川（1989）でも、「引用するということは、ある発言の場ないしは思考の場で成立した発言や思考を、それとは別の発言の場において再現するということである。」（p.362、下線は竹林）と述べられている。

7 砂川（1989）・藤田（2000）は、引用の対象について、それぞれ「ある発言の場ないしは思考の場で成立した発言や思考」「所与と見なされるコトバ」（下線は竹林）と述べている。しかし、両者とも、鎌田（2000）と同様、時間的に未成立の要素も引用の対象になり得ると考えている。この点では、本稿も、それら先行研究と立場を同じくする（(34) (38)等を参照）。

8 「「言表内容の引用」用法の一部」としたのは、「言表内容の引用」用法でも、「今度のパーティーには行けないって、はっきり言うんだよ。」（＝ (34a)）のように、引用対象が既出要素でない場合が存在するためである。

9 「は」の主題提示用法と対比用法とが互いに排他的なものでないことは、佐藤（1976）・尾上（1995; 2000）などで述べられている。

引用文献

庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（松岡弘監修）[2000]『初級を教える人のため

- の日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（白川博之監修）[2001]『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 尾上圭介（1981）「「象は鼻が長い」と「ぼくはウナギだ」」『月刊言語』10巻2号（2月号），10-15，大修館書店
- 尾上圭介（1995）「「は」の意味分化の論理——題目提示と対比」『月刊言語』24巻11号（11月号），28-37，大修館書店
- 尾上圭介（2000）「[書評] 青木伶子著『現代語助詞「は」の構文論的研究』」『国語学』51巻2号，右1-11
- 鎌田修（2000）『日本語の引用』ひつじ書房
- 国際交流基金日本語国際センター（1990）『日本語中級 I』凡人社
- 佐藤ちよ子（1976）「主題化に関する主格名詞句の特性について」『佐伯梅友博士喜寿記念国語学論集』佐伯梅友博士喜寿記念国語学論集刊行会編，表現社，929-952
- 砂川有里子（1989）「引用と話法」『講座日本語と日本語教育4 日本語の文法・文体（上）』（北原保雄編，明治書院），355-387
- 竹林一志（1997）「助詞「も」の一用法について——基本的用法との関連」『月刊言語』26巻11号（10月号），98-103，大修館書店
- 竹林一志（2001）「「東京は神田の生まれだ」型表現と助詞「は」」『表現研究』第73号，16-22
- 手塚正昭（2001）「「って」形式の主題」『宇都宮大学国語教育』（宇都宮大学国語教育学会）第12号，左21-35
- 富阪容子（1997）『なめらか日本語会話』アルク
- 丹羽哲也（1994）「主題提示の「って」と引用」『人文研究』（大阪市立大学文学部）46巻2分冊，27-57
- 野田尚史（1996）『「は」と「が」』くろしお出版
- 普久原イサベル（1995）「〈同定説明〉と〈特質説明〉——「って」「というのは」を中心に」『日本語・日本文化研究』（大阪外国語大学日本語講座）第5号，81-92
- 藤田保幸（2000）『国語引用構文の研究』和泉書院
- 藤村逸子（1993）「わからないコトバ，わからないモノ——「って」の用法をめぐる」『言語文化論集』（名古屋大学言語文化部）XIV巻2号，45-56
- 水谷修（1979）『日本語の生態——内の文化を支える話しことば』創拓社（新装版，『話しことばと日本人——日本語の生態』）
- 渡辺誠治（1995）「ある要素に対する新規の属性の取り入れに関わる形式——「ッテ」と「φ」を中心に」『日本語・日本文化』（大阪外国語大学留学生日本語教育センター）第21号，105-123
- Association for Japanese-Language Teaching（1995）. *Japanese for busy people II*（revised

edition) . Tokyo: Kodansha International.

Gakken (1990) . *Japanese for everyone: A functional approach to daily communication*. Tokyo: Gakken.

Tanahashi, Akemi & Oshima, Yayoi (1998) . *Sounding natural in Japanese: 70 phrases to enhance your daily conversation*. Tokyo: The Japan Times.

付記

査読者お三方をはじめ，本稿の内容に関して貴重なコメントをくださった方々に心より感謝申し上げます。